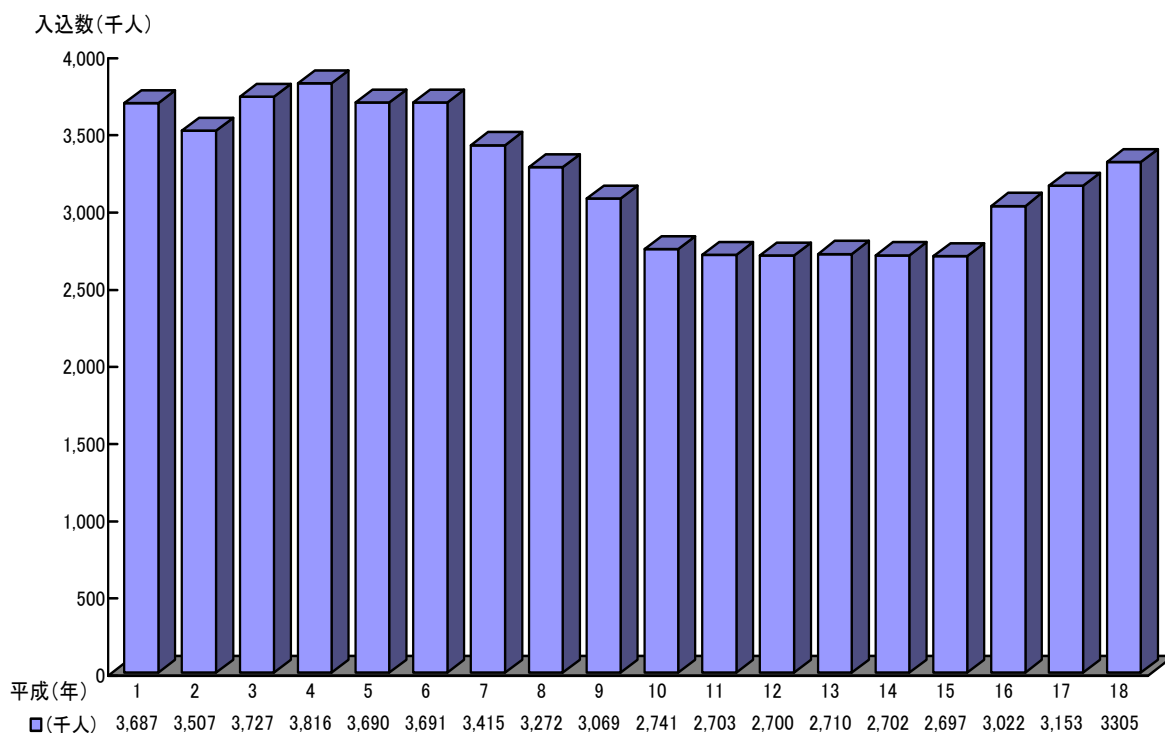


平成 18 年会津若松市観光客入込数の概況について



【入込数の推移】

本市の観光入込数は、平成4年の3,816千人をピークとして右肩下がりに減少を続け、6年後の平成10年にはピーク時より107万人も入込みが減少、その後6年間は270万人台で推移する長い低迷期にありました。

しかし、平成16年の「あいづデスティネーションキャンペーン プレイベント」、平成17年の「あいづデスティネーションキャンペーン」、平成18年の「極上の会津キャンペーン」と、戦略的な取組みを行なった結果、平成18年には3,305千人の入込となり、3年間で608千人の入込増の結果となりました。

【平成18年の入込数】

平成18年の1年間に会津若松市を訪れた観光客の総数は3,305千人と対前年比152,409人(対前年比104.8%)の増加となり、3年連続で300万人を上回る結果となりました。

これらの要因は、一昨年の「福島県あいづデスティネーションキャンペーン」の成功をきっかけとして組織された「極上の会津プロジェクト協議会」の取組みにより、会津地域を挙げての観光誘客や受入体制の整備に力を入れたことや、JR 東日本の「この夏も会津へ2006キャンペーン」や東武グループの「こころのふる里東武の会津キャンペーン」により関東圏から大勢の送客が行なわれたことなどがあげられます。

このほか、総勢124名もの著名人が一堂に会した「エンジン01オープンカレッジ」の開催や鶴ヶ城天守閣と福島県立博物館とのはじめての共同企画展「徳川将軍家と会津松平家」などの各種イベントの開催、本市の第9代市長松江豊寿氏の半生を描いた映画「バルトの楽園」の公開など、全国規模で会津地域が注目されたことが考えられます。

本市観光は3年連続の入込増により長い低迷期を抜け出した状況にありますが、国内観光をとりまく環境は依然として厳しい状況にあります。

平成19年には、年明け早々に新春テレビドラマ「白虎隊」が放映されたほか、記録的な暖冬の影響で、鶴ヶ城を中心に順調な観光入込が記録されておりますが、引き続き「極上の会津プロジェクト」を中心とした広域的な取組みを強化し、関係団体が一丸となって本市観光の魅力向上に努めていく必要があります。

■平成18年度の主な入込要因

- ・「極上の会津キャンペーン」の開催
- ・JR「この夏も会津へ2006キャンペーン」の開催
- ・東武グループ「こころのふる里東武の会津キャンペーン」の開催
- ・鶴ヶ城天守閣・県立博物館共同企画展「徳川将軍家と会津松平家」の開催
- ・映画「バルトの楽園」の公開